

夢塾だより

～ 親と子2世代に関われる幸せ ～

(第29号) 令和元年12月27日



子曰く「吾十有五にして学に志し三十にして立つ・・・」 論語にあるとおり、私は30歳で、読谷村高志保に「高志館」という塾を開きました。地名から取った「高い志を保つ」という塾でした。不思議なくらい生徒が来てくれてあつという間に100人を越え200名規模の大きな塾となりました。高校入試の2週間前からは、合格のボーダーラインにある生徒は、早朝も授業をして、手作りのおにぎりを食べさせてから学校に行かせました。ところが、35歳で教員採用試験を受けることになり（母親の熱烈な願い）36歳、平成4年から石川高校で教員としてのスタートラインに立ちました。24年間の教職公務員としての生活を終え、再び60歳で「夢塾」を開設しました。「高志館」で学んだ生徒らは年月を経て、父親になり母親になっていました。30年の時を経て、夢塾には親が高志館出身の生徒がかなり来てくれています。有り難い話です。

教師として駆けだしの私は、いかに受けを狙うか。いかに楽しませるか。いかに脳裏に定着させるか。の三本柱を念頭において授業に挑みました。瞬間的なギャグで必ず笑わせる。覚えにくい公式は歌にする。一口言葉のリズムでたたき込む。そんな若気の至りでした。お恥ずかしい限りです。今はすっかり忘れてしまいましたが塾長としての私は、他の講師を鼓舞するために「塾の教師は黒板の前のピエロであれ」と言ったそうです（笑）。

読谷中学校のTさんは、数学的才能豊かな生徒です。非凡さが随所に見れます。母親も高志館で学びました。目が輝いている子でした。読谷高校へ進学し看護師になりました。読谷高校のSさん。数学が得意ではありません。母親にいつも叱られていると言っています。母親は個性豊かな生徒でした。球陽高校に進み公務員になりました。興南中学校のR君、寡黙ですがしっかりした筆跡で自ら解き進みます。母親はやはり寡黙でしたが可愛かった。読谷高校のMさん。天衣無縫の明るい性格で皆から「天然」と言われるのもうなずける生徒です。父親は正義感が強い生徒だった。自治体をまとめる仕事に就いています。興南中学校のK君。物怖じしない性格で細かいところを気にしない大物。母親は真面目を絵に描いたような生徒だった。いつも温厚だった。いい母親になっていることがわかります。

高校入学当時の合格写真は今の生徒に瓜二つ。塾生に中学生だった頃の親の写真を見せることができる塾はそうない。合格のチラシ作って良かった。

迎える令和2年、青少年に明るく限りない夢を・・・。